

令和3年度 鴨島支援学校第1回学校運営協議会記録

日時： 令和3年7月9日（金）

13:30～15:35

場所： 多目的室

1 開 会 【進行：掛田教頭】

2 自己紹介
会長（藤井委員）・副会長（加藤委員）の選出 【承認】

3 議 題 【進行：藤井会長】
(1) 学校運営の基本方針等について（森本校長） 【承認】

T委員	・現職の時、居住地校交流といって、年間3回ほど出身地の学校に子どもたちが交流に行っていたが、今も行っているのか。
校 長	・小学部2年生の児童が、先日、地元の小学校とリモートで交流を行った。先方の学校の理解と保護者の理解があり、正式な手続きの後、実施できている。年間3回程度、交流を予定している。

(2) 本校の教育活動について（森本校長）
パワーポイントによる説明→質疑無し 【承認】

(3) 令和3年度学校評価（総括評価票）について（掛田教頭） 【承認】

N委員	・情報視聴覚課の評価指標の中に、「児童生徒個人に貸与されたタブレット端末を活用して」とあるが、家庭へ持ち帰らせているのか。本校（小学校）は、故障時に保障してもらえないため、家庭には持ち帰らせず学校に留めている。
校 長	・現在手続きの準備中であり、保護者に説明して貸与する予定である。県立学校は、故障等に対しては、故意でなければ県で保障してくれる。
N委員	・公立小学校では、市が保障するのは難しい。壊れた時の保障はどうなるのか参考になればと思いお聞きした。

校長	・今のところは全員が家庭に持って帰って活用するとは考えていない。児童の実態や家庭の状況等によって、家庭での学習に必要な場合は、持って帰る方向で進めている。
K委員	・昨年度からテレビ会議システムが活発に活用されてきて、リモートで研修を受けるようになってきている。学校で研修会をする時に、近隣の学校にも案内をすることがあると思うが、学校外の先生方も参加する研修で実技を伴う場合は、リモートでは難しいと思うが、そんな時はどうされているのか。
教頭	・実技を伴う研修を、コロナ禍でどうしようかと考えている。近隣の先生をリモートで繋いで行うという方法を今考えている。
校長	<p>・コロナ禍で、校内でも密にならないよう、ふれあいホールと各学部のホールに分散してリモートで校内研修をしている。夏季休業中の公開研修では、8月末に広島大学の先生に講師を依頼しているが、リモートで広島と繋ぎ、本校に20名程度の先生方に来ていただいてふれあいホールで実施する予定である。感染拡大すれば、参加者個人個人とZoomで繋いで実施しようと考えているが、今回は実技を伴うため、材料を事前に届けるという方法を考えている。</p> <p>・この夏の中四病連（中国四国地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会）徳島大会は、2日間の日程を1日に短縮して、各県をつないで実施する。通常は同時進行で行う分科会を中心に、順番に各県からリモートで発表してもらい、県内の指導助言者には直接本校に来て本校から助言していただく。文科省の特別講演はDVDにして頂き、事前に各校へ配る。鳴門教育大学の先生の記念講演は事前に本校で収録し、本校のHPで一定期間、オンデマンドで視聴できるようにする。状況に応じていろいろな案がある。</p>
K委員	・特別支援学校の先生は、いろいろな研修を受ける機会があるが、近隣の小学校等で特別支援学級の先生方の研修にも対応していただけたらと思う。地域の大きな資源なので。
校長	・現在は市教委を通じて案内している。本校から講師を派遣して各学校で研修する形もできると思う。
F委員	<p>・オンデマンドとかいろいろな方法によって、研修の機会はかえって増えたのではないか。</p> <p>・一番最初の重点課題では「児童生徒一人一人を大切に」というこ</p>

とだが、小学部だけが目標をあげている。児童生徒と書いてあるのできっと中・高等部も目標があると思うがそのあたりはどうか。

教 頭 ・ 本来ならば全学部の目標を記載すべきだが、紙面上ピックアップして記載している。実際には行っている。

校 長 ・ 以前は重点目標が2点だったが、昨年度から4点に増やした。それを受けて各学部は2つ、各課は1つの重点課題を選び、それぞれ重点目標を立てている。学部として、残りの2つの重点課題についても、実際には目標を立てて行っている。ここに記載されているのは学校全体の取組の一部であり、精選している。

F委員 ・ 数値目標も緻密にされている。小学部と中・高等部で重点化して分けられているのだと思ったが、安心安全も小学部だけでなく中・高等部も入れたらどうかと思った。教室の危険箇所や安全の点検とかもしていると思うが、これだけ見たらしていないと思うので。

校 長 ・ 改善していこうと思います。

F委員 ・ 避難訓練も地域に発信されるそうだが、みなと高等学園は順番に高度にしていくと聞いた。事前通告を減らして行って突然行うなど。それだと厳しいですか。

校 長 ・ 本校では毎年、火災と地震に対する訓練を行っている。時間と日程を決めておいて、計画に沿って行い、後で振り返り反省点をまとめている。みなと高等学園では、生徒自身に自分で判断して動くということが求められたが、本校は児童生徒は教員と一緒に動くので、どちらかといえば教員の訓練の意味合いが強い。みなとの地震避難訓練では、1学期は決められた日時、2学期は決められた月を事前予告しておき、3学期は全く予告しないで突然実施していたが、生徒は慌てることなく条件反射のように屋上に避難していた。本校の防災については、私も考えるところがある。

F委員 ・ 実際災害はいつ起こるかわからない。国の事業を受けて防災の大切さを痛感した。ここは海より高いから大丈夫かもしれないが。

校 長 ・ 実は、構造上小学部が袋小路になっている。火事でも地震でも避難経路は2つしかなく、病棟の方に逃げるか、高等部の方に逃げるしかない。訓練では第一次避難、第二次避難と丁寧に計画を

立てているが、火事の場合はいち早く避難しないと第三次避難所まで行けないと分かった。次回の訓練から改善したい。

Y委員 ・評価指標に何回とか回数が細かく書かれているが、評価をするにあたって、達成度が80%等高いが、これだけの成果を出すのは大変ではないか。

校長 ・評価指数は、具体的な数値目標を設定する上で、ある程度達成可能な数値を設定している。達成できれば次年度は数値を上げるか、新たにできることを目標にしていく。昨年度はコロナ禍で達成できない内容もあったので、今年度はコロナ禍に合わせた目標を設定している。

F委員 ・高すぎるのではないかと心配があるが、目標が目に見える形で表されていて素晴らしい。

T委員 ・「地域とともにある学校」ということで、学校評議員会の時も評議員で意見交換をしていたが、特別支援学校という立場で更に地域に呼びかけたり、リサイクルグッズ等を市役所の入り口に設置したりして、非常に良いアイデアだと思う。地域住民の一人として、学校への理解とか、児童生徒さんへの理解とか、子ども一人一人のことをどのように地域へ発信していくのかなと関心がある。以前には、川島高校の生徒がボランティアで学校祭や運動会に来ていたが、良い取組だと思う。コロナ禍なので今はここに載せないのだろうが、保護者の気持ちとか、子どもさんへの愛情を学ぶ場面だと思う。飯尾敷地小学校の保護者も、以前はバザーに参加していたが、今もされているのか。

N委員 ・コロナ禍で今はできていない。

T委員 ・学校を通して保護者に呼びかけ、毎年参加していた。地域の方が支援学校を実際にこの目で見るいい機会ではないかと思う。あれをどのように活用するのかその方向性を知りたい。

校長 ・コロナ禍でなかったら、学校祭は公開しているので学校の取組を直接学校に来て見てもらえた。昨年度は年度当初に臨時休校が続いたため運動会は中止にして、校内の行事に替えた。学校祭は保護者や家族に限定して演示のみの午前中開催にした。実は、今年度も学校祭をどうしようか検討中である。コロナの完全な終息は難しい。予防接種も進んではいるが、病弱の支援学校なので、

学校祭で多くの皆さんに来ていただくのは難しいと思う。リモートというのも便利だが、直接会って、顔を合わせてというのも大事なことなので、来年度以降は通常開催したいと考えている。

T委員 ・ こういう良い取組は継続して欲しい。先ほどの学校紹介ビデオで見たポッチャの映像にもあるように、個に応じてとか多様性に応じてというけれども、あの学校祭と運動会を見ただけで、まさに工夫されて「個に応じて」というのが伝わってくる。リモートは、子どもたちにその場面を見せるのに、個人情報観点から、事前に本人や保護者に理解を得なければいけない。どんな文章よりもあの場面を見ただけで考え方が変わると思う。

校長 ・ 今年の運動会は終わったが、小学部は玉入れをした。玉入れの仕方はみんな一人一人違うけれど、結果としてチームの得点になり、みんなと一緒に玉入れの競技をしたことになる。

F委員 ・ ホームページでもしっかりアップされていた。感心したことが、今年ホームページの字が大きくなって、読みやすくなった。

T委員 ・ 放課後等デイサービスとの連携は最近どんどん増えている。職員が増え、研修が必要だという事業者の方もいる。センター的機能ということが地域との繋がりの一つのキーワードになると思う。支援学校の専門性を生かして、特別な支援が必要なお子さんへの支援の方法等、地域が学ぶ機会を増やしていただければありがたい。実際にはどのくらいデイサービスを活用されているのか。

校長 ・ ほとんどの児童生徒が利用しているが、児童生徒が利用する事業所から、学校見学をさせて欲しいと言われたことが何回かある。指導員さんたちが学校に来て、学校での支援の方法を見て、事業所での支援の参考にしていると聞いた。

T委員 ・ 自分が現職（校長）の時は学童が主だった。なかなか専門の方がいなくて、障害のある子どもさんの指導をどうしたらいいか悩んでいた。今でいう認定保育園の先生も就学指導も関係してくるので、いろいろな事業所を巻き込んで、ここがそういう学習の場や機会になればいいと思う。

校長 ・ 本校でも放課後等デイサービスを利用している子が多いので、アドバイス等はできると思うが、特別支援学校のセンター的機能というのは基本的に学校関係を対象としている。放課後等デイは

福祉の領域なので、質問や相談にはのるが、センター的機能を活用して研修や継続的な支援をするのは難しいと思う。

T委員 ・学童も子育て支援になるので、なかなかそこまでは難しいか。

I委員 ・教育と福祉の連携は数年前からいわれているところで、吉野川市と阿波市が協働政策している支援協議会というのがある。鴨島支援学校さんも参加をしているが、昨年度、子ども支援部会を新たに設けた。元々医療的ケア児の支援としてあったものを広げて、放課後等デイサービスであったり児童発達支援であったりと事業所の数がどんどん増えてきて、利用者も増えている中で、学校との連携が何かできないかと考えて立ち上げた。学校と福祉が分かれているところがあるので、間に入って一緒に進めていけるような感じで実践していけたらと思う。支援学校だけでなく、放後等デイサービスを利用されている通常の小中学校の子どももいるので、そこと連携を取ったりできるようにと模索している。研修会だけでなく、意見交換等もできるようになればよいと考えている。

校長 ・本校の児童生徒が在住している市町村については、自立支援会議等に参加して、意見交換させていただいている。

T委員 ・「地域とともに」となると、支援学校とか、子ども未来課とか民間の事業所とかが一緒になって子どもたちを見守るというか、そういうことが実現されていったら、すてきなと思う。いろいろな目で見て、県立と市立や公立との垣根も越えられたら良いと思う。

校長 ・私も垣根を越えたいタイプだが、設置者が違うということで控えざるを得ないところがある。県立市立関係なく、地域の学校なので一緒に参加できる催し等があれば良いなと思う。

T委員 ・児童生徒の交流作品展の展示場所が見つからないと聞いた。

校長 ・昨年度まで市内の量販店で行っていたが、お店が変わって今年度はできない。どこかできる場所はないか。

T委員 ・市民プラザはお金が発生する。1時間400円。

Y委員 ・足を運びやすいところが良い。

- 校長 ・市役所なら市民がよく行く場所なのでいいと思うがどうか。
- Y委員 ・市役所は5時までで土日は見えない。普段働いている人は土日がよい。鴨島の公民館であれば、玄関のホワイエは無料で会議室は有料である。ケーブルネットに入っている人も多く、市内も映るようなので、ケーブルテレビを活用してはどうか。
- T委員 ・発信する場所があれば良い機会だと思うが、やはり大型スーパー等は人が集まる。いろいろな世代が来るので一番効果はある。新しい店はだめなのか。
- 校長 ・以前のように空いた広いスペースがない。
- K委員 ・銀行は難しいか。
- K2委員 ・放課後等児童デイが阿波市の阿波銀で展示してもらっている。壁面作品も毎月交換し、季節に合わせて展示している。両親や家族が見たらうちの子の作品だと喜んでもらえる。銀行は広めのところがいい。
- 教頭 ・本校と飯尾敷地小、鴨島一中及び川島高校の合同作品展なので規模が大きい。銀行で展示した経験があったので提案したがスペースが難しい。やり方を考えて、少しずつ1年かけて掲示する方法もあると話聞いていて思った。それだとスペースが狭くても年間通して展示できる。
- N委員 ・今は大きな共同作品を作っているが、定期的に飾ることができればスペースに合わせて共同作品といえど工夫はできる。
- T委員 ・スペースがこの部屋ぐらひは必要で、市民プラザでも良いが、どこも無料というわけにいかない。これを特例にしたら他も同じようになってしまう。
- Y委員 ・一番よく見てくれるのはショッピングセンターだと思う。吉野川市役所は難しいか。県の教育委員会に言っても借りれないのか。
- 校長 ・県と市では管轄が違うので無理だと思う。
- F委員 ・市立の学校が全体で言ったらどうか。

N委員	・これも共同でとなるから難しいだろう。
T委員	・吉野川市内の全ての学校ならいけるが、鴨島町だけになると難しいのではないか。主旨を理解していただく努力が必要となる。
校長	・ケーブルテレビで紹介してもらうのは良いアイデアだと思う。
Y委員	・普段の生活の様子を撮してもよいのであれば、あたってみたらいいのでは。
T委員	・展示の物的な条件を言えば、レールがあるとかパネルが必要。どこの壁にでも掲示できない。市民プラザは、無料で四国大学の取組を置いているが、展示協定を結んでいるからできている。
I委員	・市役所の1階のホールは現在展示が禁止になっている。コロナの影響でそこが密になるため。現在設置しているコーナーは確保しているが、コロナが落ち着かないと大規模の展示は難しい。
K委員	・学校要覧の年間行事予定を見たら分かるが、11月の最初の頃に学校を自由に見てよい日があり、毎年楽しみにしている。今年も学校祭など対外的なことは制限しているとのことだが、これは今どうなっているのか。去年は自分も遠慮をした。
校長	・オープンスクールは、昨年度も10～11月に感染者が減少したので実施した。福祉の事業所にも案内して来ていただいた。
K委員	・これは誰が来てはいけないという制限はないのか。今の時期はいろいろ制限があるのかもしれないが、いい機会だと思っている。学校関係者以外の者も、実際に学校に入って授業や子どもを見たり校舎の様子を見たりできる。小・中学校は子どもが通っていた時には参観日等で見える機会があったが、その他にはない。こんな良い機会があるのと思う。
校長	・ホームページで案内しているが、関心がなければ見てくれない。巡回相談員が様々な会や事業所等に行ってチラシを配る等、福祉の関係機関には広報している。学校としては、コロナ禍でも大学生の教育実習や介護等体験等をすべて受け入れている。例年なら直接児童生徒に関わってもらうのだが、コロナ禍でもあり、子どもとの距離をとって授業見学にしている。しかし、見てもらうだけでも子ども理解に繋がるので。今年度も受け入れる方針である。

F委員	・今年度も「とくしま教育の日」を活用していただきたい。全県一斉だからそれに則って活用するとともに、それを周知して欲しい。
-----	--

(4) 今年度の取組について (森本校長)

【承認】

校 長	・今年度のテーマの一つを、「太鼓をツールとした地域交流」と提案したい。理由は、以前から吉野川市内を拠点として多様な人を受け入れて活動している「太鼓の楽校」に、数年前から学校祭で演奏をしてもらったり交流をしたりしており、本校に在籍している児童生徒も練習に参加している。打楽器のため、様々な方法で叩くことができ、障がいの重度化・多様化にも対応できると期待できる。「太鼓」をツールとして、地域との繋がりができればいいと考えている。
Y委員	・コロナのために昨年度から「太鼓の楽校」の公演がなくなった。神社でよく奉納させてもらっていたので、氏子さんに了承を取り近くの神社の境内で密にならず、そこで披露するというのはどうか。お祭りの時期であれば地域の人が見に来ることもできる。鴨島公民館で毎年12月に発表会をしているので、その時でも大丈夫だし、密が心配というのであれば奉納太鼓という形もできる。指導者を支援学校に派遣して、そこで指導した後、飯尾敷地小学校と一緒にワークショップをして、一緒に奉納することもできる。
N委員	・それをするとしたら、土日とかになるのか。
Y委員	・都合のつく時間で平日でもよい。
T委員	・飯尾敷地小学校では、以前に国府支援学校の太鼓のチームを呼んで交流をしたことがある。特別支援への理解を兼ねてやっていただいたが、とても良かった。人権学習発表会や参観日でやってもらうのはどうか。
N委員	・現在は、参観日も各学年ごとで順番にやっているからイメージがわからない。コロナ禍でもあり今年は難しいなと思う。本校は人数もそれほど多くないし、太鼓なら打楽器なので、全校生徒で聞くというのは可能だと思う。
Y委員	・平日に授業の一環で指導に行き、それぞれの学校で練習をして

	<p>おいてお祭りで一緒に奉納する，というのはできるが，お祭りは土日のことが多い。</p>
Y委員	<p>・お祭りには自由に参加できるものなのか。土地の人間でないので分からない。</p>
T委員	<p>・学校で人権学習発表として，他校の生徒さんと一緒に太鼓をお借りして演奏するというのは，今もしていると思う。今年は無理でも来年はできるかもしれない。ただ，合同練習はなかなか難しいので，飯尾敷地小学校と鴨島支援学校と別々に練習しておいて，当日合わせるというのはできるかもしれない。</p>
Y委員	<p>・難しいと思うが不可能ではない。普段の日に別々に練習して，どこかで発表になったときに相談して実施することは可能だと思う。発表が可能なら神社で奉納することもできる。</p>
F委員	<p>・いろいろな発表の可能性があるので考えていただいて，その時に地域のケーブルテレビに取材に来てもらうのはどうか。</p>
T委員	<p>・地域の文化祭や公民館で発表する方法もある。</p>
Y委員	<p>・長原というところに行ってやらせてもらったり，地域の祭りで叩いたりすることはできるかもしれない。今はコロナ禍で遠慮してきたが，練習を続けていれば必ず発表の機会は見つかる。</p>
F委員	<p>・今後，学校として詰めていただきたい。では，今年度の学校運営協議会としてのテーマは「太鼓をツールとした地域交流」と「交流作品展の展示方法」ということで進めていきたい。本日頂いた意見を参考にして，支援学校の今後の取組に生かしていただきたい。また，委員の皆様も他に協力できることがあれば，いつでも学校へ連絡して欲しい。</p>

3 その他

【進行：掛田教頭】

- ・次回は，10月22日（金）を予定している。過半数の委員が欠席の場合，日程を調整させていただくかもしれない。
- ・次回は，学校見学を中心に予定している。

4 閉 会

【進行：掛田教頭】

